

『^わ環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成 19年 4月 25日	
		作成部署	土木建築部 道路建設室	
事業名	伏見柳谷高槻線 地方道路交付金事業	構想番号	(土・道) 構-19-	
		地区名	長岡京市長岡1丁目地内	
概算事業費	約3億円	事業期間	平成19年度 ~ 平成20年度	
事業概要	事業延長：L=30m 計画幅員：W=10.0m 2車線 歩道2.0m (両側) 歩道設置			
関連する公共事業	なし。			
ガイドライン		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
主要な評価の視点				
地球環境・自然環境	地球温暖化 (CO ₂ 排出量等) 地形・地質 物質循環 (土砂移動) 野生生物 ・絶滅危惧種 生態系 など	・踏切部の幅員が狭く歩行者と自動車が増混しているため渋滞が発生するなど速度低下をきたしている。	・踏切幅による歩車分離により交通が円滑化し、CO ₂ 排出量が削減。	△
生活環境	水環境・水循環 大気環境 土壌・地盤環境 騒音・振動 廃棄物・リサイクル 化学物質 粉塵 電磁波・電波・日照 など	・踏切部の幅員が狭く歩行者と自動車が増混しているため渋滞が発生するなど速度低下をきたしており、排気ガスの発生が増加する等、沿線の生活環境に悪影響を及ぼしている。	・踏切幅による歩車分離により交通が円滑化し、排気ガス排出量が削減。	△
地域個性・文化環境	景観 里山の保全 地域の文化資産 伝統的行事 地域住民との協働 など	・当該事業は、長岡京市中心市街地の近隣商業地域に位置する踏切幅事業であるため、特段の配慮は不要と判断する。	・現状の環境を保全。	△
地域の環境像	事業箇所周辺に多くの市役所などの公共施設、阪急長岡天神駅やJR長岡京駅が集まり、長岡京市が策定するバリアフリー基本構想で特定経路に位置付けられる重要路線であるため、踏切の幅員による歩行空間の確保が急務となっている。			
特記事項	なし。			

※「環境評価」欄には、評価項目ごとの環境配慮の自己評価を記載する。(改善○、中立△、悪化×)